

令和 6 年度「千葉県こどもの生活実態調査」について（案）

1 調査目的

- 千葉県内に住む小学 5 年生及び中学 2 年生（約 2 万人）とその保護者を対象に、子どもの学校の授業の理解度、放課後の過ごし方、保護者の収入や就業の状況、公的支援等の利用状況など、教育や生活に関連する調査を行い、その実態を把握する。

※調査項目の基本的な考え方

貧困の状況、貧困から生じる子どもの生活へのリスクやそれぞれのリスクの関連性、次世代への貧困の連鎖の状況を顕在化させる。また、公的・社会的支援の認知度、利用度、利用意向を把握する。

- 次期「千葉県子どもの貧困対策推進計画」の策定に向け、現計画で設定した指標の進捗状況を把握する。

（参考）実態調査により把握する指標 ※（ ）内は前回調査時（R1）の数値

- ・ 困窮層・周辺層の割合（困窮層：6.9%、周辺層：12.3%）
- ・ 電気、ガス、水道料金の未払い経験（電気：2.8%、ガス：2.3%、水道：3.0%）
- ・ 食料又は衣服が買えない経験（食料：16.0%、衣服：21.1%）
- ・ 本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいない保護者の割合（困窮層：22.6%）
- ・ 頑張れば報われると思う子供の割合（困窮層：67.1%、周辺層：73.2%、一般層：77.4%）
- ・ 自分は価値のある人間だと思う子供の割合（困窮層：37.8%、周辺層：50.4%、一般層：56.3%）
- ・ 自分のことが好きだと思う子供の割合（困窮層：39.4%、周辺層：50.1%、一般層：57.6%）

- 現計画期間中（R2～R6）に発生した状況変化（新型コロナウイルス感染症の拡大、物価高騰など）の影響を把握する。

2 調査対象

前回調査（令和元年度）からの経年比較を行うため、調査対象は前回同様としたい。
なお、対応困難な市町村があった場合は別途調整する。

（参考）前回調査（令和元年度実施）の調査対象

地域バランスを考慮し、県内の 15 市町村（柏市、成田市、旭市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市、四街道市、匝瑳市、山武市、多古町、睦沢町、長生村）の小学 5 年生（10,903 人）・中学 2 年生（9,937 人）とその保護者

3 調査方法

- 調査票（紙媒体）を学校経由で配付する。
- 回収は、調査票に同封する返信用封筒による郵送回答に加え、WEB 回答を併用。

4 スケジュール（予算が成立した場合）

- 令和6年 3月 調査票案作成、受託者選考会議開催
4月 契約、調査対象市町村選定
5月 調査票配付
9月 結果報告書（速報版）完成
11月 結果報告書（詳細版）完成

5 検討が必要と思われる事項

（1）新たに追加すべき調査項目

現計画策定(R2)以降、新型コロナウイルス感染症の流行や物価高騰など、こどもの生活実態に影響を与える状況変化があったことから、これらの影響を把握するための調査項目を検討したい。

（参考）内閣府「子供の生活状況調査」における新型コロナウイルス感染症影響の測定項目

【保護者票】

- ・あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。

	増えた	減った	変わらない
a) 世帯全体の収入の変化			
b) 生活に必要な支出の変化			
c) お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと			
d) お子さんと話をすること			
e) 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること			
f) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと			

【子ども票（中学生票）】

- ・あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

	増えた	減った	変わらない
a) 学校の授業以外で勉強する時間			
b) 学校の授業がわからないと感じること			
c) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数			
d) 食事を抜く回数			
e) 夜遅くまで起きている回数			
f) 親以外の大人や友達と話をすること			
g) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと			

(2) 国の実態調査との比較

- 令和3年12月に内閣府より「令和3年子供の生活状況調査の分析報告書」が公表されたことから、これを用い、全国的な状況との比較を行いたい。
- ただし、内閣府の調査は、県の前回調査と調査項目や困窮層の分類方法等が異なり、全ての項目を単純に比較することはできない。一方、前回調査からの経年比較も行う必要があるため、基本は前回調査をベースとしつつ、内閣府調査特有の項目を県調査に盛り込むことで対応したい。

(参考) 千葉県調査と内閣府調査の主な違い

	千葉県調査	内閣府調査				
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生とその保護者 ・中学2年生とその保護者 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生とその保護者 				
困窮の分類	<p>下記3要素の該当数に応じて分類 2つ以上⇒困窮層、1つ⇒周辺層 該当なし⇒一般層</p> <table border="1"> <tr> <td>①低所得 等価世帯所得が国民生活基礎調査から算出される中央値の1/2未満</td> <td rowspan="3">○等価世帯収入 等価世帯収入を本調査から算出される中央値を基準に3分類 ・中央値の1/2未満 ・中央値の1/2以上中央値未満 ・中央値以上</td> </tr> <tr> <td>②家計の逼迫</td> </tr> <tr> <td>③子供の体験や所有物の欠如</td> </tr> </table>	①低所得 等価世帯所得が国民生活基礎調査から算出される中央値の1/2未満	○等価世帯収入 等価世帯収入を本調査から算出される中央値を基準に3分類 ・中央値の1/2未満 ・中央値の1/2以上中央値未満 ・中央値以上	②家計の逼迫	③子供の体験や所有物の欠如	
①低所得 等価世帯所得が国民生活基礎調査から算出される中央値の1/2未満	○等価世帯収入 等価世帯収入を本調査から算出される中央値を基準に3分類 ・中央値の1/2未満 ・中央値の1/2以上中央値未満 ・中央値以上					
②家計の逼迫						
③子供の体験や所有物の欠如						
所得(収入)の把握方法(調査内容)	<p>【条件設定】 社会保障給付を除き、単身赴任者を<u>含む</u>世帯収入を質問。</p> <p>【回答のカテゴリー値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「0円」から50万円刻み ・「100万円」以降100万円刻み ・最大値「900万円以上」 	<p>【条件設定】 社会保障給付を<u>含む</u>、単身赴任者を<u>除いた</u>世帯収入を質問。</p> <p>【回答のカテゴリー値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「50万円未満」から50万円刻み ・「500万円」以降100万円刻み ・最大値「1,000万円以上」 				
片方しかない調査項目(主なもの)	<p>【こども票】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己の所有物 ○将来の夢・目標 ○自己肯定感 <p>【保護者票】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の体験や所有物 ○保護者の15歳頃の状況 ○今から10年前の暮らし向き ○保護者の逆境経験 ○住居の状況 ○医療機関受診状況(子供含む) ○支援情報の入手方法 	<p>【こども票】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最近の生活満足度 ○新型コロナウイルス感染症の影響 ○逆境経験 <p>【保護者票】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(離婚している場合) 養育費の取決め・受取有無 ○(保護者が働いていない場合) 働いていない理由 ○子供の進学見通しの理由 ○最近の生活満足度 ○新型コロナウイルス感染症の影響 				
比較可能項目(主なもの)	<p>【こども票】 平日の勉強時間、授業の理解度、進学希望、相談相手</p> <p>【保護者票】 婚姻状況、学歴、両親の就業形態、こどもの進学見通し、現在の暮らし向き、家計の逼迫、精神状態</p>					